

平成15年度市町村普通会計決算(速報)の特徴について (政令指定都市を除く県内94市町村)

1 特徴

(1) 決算規模

<歳入総額>	1兆 24億円(1兆13億円)	0.1%増(5.1%)
<歳出総額>	9,729億円(9,733億円)	0.04%(4.9%)
平成15年度地方財政計画の伸び率 1.5%		

(2) 決算収支

- <実質収支額> 217億円の黒字(199億円の黒字)
 - ・ 94団体のうち、92団体が黒字。
 - ・ 昨年度に引き続き、大牟田市と川崎町が赤字団体であるが、大牟田市は赤字額が増加し、川崎町は赤字額が減少した。
- <単年度収支額> 27億円の黒字(22億円の赤字)
 - ・ 94団体のうち、37団体が赤字(55団体)。

(3) 歳入

- ・ 地方税や地方交付税が減となったが、特例地方債(赤字地方債)である臨時財政対策債や国庫支出金は増加したため、歳入全体としてほぼ横ばいとなった。
- ・ 国庫支出金は、児童扶養手当や知的障害者支援費に係る負担金等が増となったことなどにより増加した。

(4) 歳出

- ・ 義務的経費は、社会福祉費や児童福祉費の増により、扶助費が増加した。
- ・ 投資的経費は、災害復旧事業は増加したものの、普通建設事業費は大幅減となった。

(5) 財政指標

- <経常収支比率> 89.3%(88.2%)
平成14年度全国市町村平均 86.2%
- ・ 財政構造の弾力性を判断する経常収支比率が上昇し、財政構造の硬直化が進んだ。90%を超える団体は34団体(38団体)。
- <地方債現在高> 1兆501億円(1兆42億円) 4.6%増(2.4%増)

(参考) 政令指定都市を含めた本県市町村の決算(速報)

<歳入総額>	2兆2,820億円(2兆3,065億円)	1.1%(2.8%)
<歳出総額>	2兆2,327億円(2兆2,592億円)	1.2%(2.5%)
政令指定都市を含めた決算規模は減少している。		
<実質収支額>	277億円の黒字(261億円の黒字)	

()内の数値は、平成14年度決算の数値である。

(注) 宗像市及び玄海町は平成15年4月1日新設合併したことに伴い、平成15年度から政令指定都市を除いた市町村数が94となっている。

問題点

- ・ 経常収支比率の上昇にみられるように、財政構造の硬直化が続いていること。
- ・ 地方債現在高の増嵩による将来の財政負担が懸念されること。
- ・ 生活基盤の整備・高齢者福祉等市町村の財政需要は増大すると見込まれること。

対策等

- ・ 極めて厳しい財政状況や国・地方を通ずる構造改革(三位一体の改革)の動向を踏まえ、中・長期的視点に立った計画的な財政運営
- ・ 事務事業の見直し、組織の簡素効率化、定員管理・給与の適正化など行財政改革の一層の推進による経費節減
- ・ 市町村合併の推進による財政基盤の強化